

犬が陽に吠える国 〔四川省 九寨溝・成都市〕を訪ねて

四川大地震復興応援ツアー―齊了会訪中団記念文集

6日目 7月30日(木) 成都・錦江賓館錦苑樓泊

06:00 モーニングコール。

07:15 ホテル発、樂山へ。(150元)\*樂山が近いということ

で追加観光。

08:15 眉山トイレ休憩。

09:30 樂山着。歩いて樂山大仏見学。

11:00 小雨の中、岷江の遊覧船に乗り大仏全景を写真に収める。

13:20 昼食・眉山賓館。

15:00 三蘇祠見学。

17:10 都江堰着、見学。

\*上海市の地震復興援助で、ハード面の復興はほぼ完成。

19:00 夕食・錦上苑酒樓。

20:50 ホテル着。

11:30 上海浦東国際空港着

\*上海ガイド・詹さん出迎え。

15:50 昼食・浦東空港2Fレストラン・沙龍餐厅。

搭乗手続き。

17:30 MU271便で成田へ。

成田着(日本時間)。

5泊5日コースの7月29日(水)の旅

5日目 7月29日(水)

05:45 モーニングコール。朝食・バイキング。

07:10 ホテル発。

07:50 成都双流国際空港着。搭乗手続き。

09:00 MU5402便で上海へ。

11:30 上海浦東国際空港着。\*上海ガイド・詹さん出迎え

昼食・浦東空港2Fレストラン・沙龍餐厅。

搭乗手続き。

17:10 MU271便で成田へ。

21:00 成田着(日本時間)。

7日目 7月31日(金)

05:45 モーニングコール。朝食・バイキング。

07:00 ホテル発。

07:40 成都双流国際空港着。搭乗手続き。

09:00 MU5402便で上海へ。

成都での団長挨拶

井垣清明

この「四川大地震復興応援ツアー・斉了会訪中団」は、大石浩準さんの提唱により、5日間コースと7間コースの2班計19名で構成された。団長が5日間コースで参加したため、旅程なかばで解任となり、後は副団長の大石さんに責任を委ねることになった。

7月28日(火)に、内輪で「お別れ宴会」を催した。以下は、その際の「解任挨拶」の要旨である。

日本の友人の皆様、斉了会の皆様、ようこそ四川省へ、また九寨溝へおいで下さいました。

私は、九寨溝の、天の神、地の神、水の神、樹の神、草の神、虫の神、鳥の神、風の神、その他すべての神々を代表して皆様に感謝の意を表します。

実は昨年の夏、皆様が「地震復興」と銘打っておいで下さると聞き、私達はどのように歓迎したらよいか、何回も相談しました。その

結果、このたびのような、雨上がりの晴天で、

白雲も浮き、風もそよぎ、鳥や蝶も舞い、滝も水量の多い瀑布を作り、雨で洗われた樹々や空気を準備するのがよいだろうということになりました。遺憾ながら、雨後の土砂崩れによる道路事情で、黄龍を御覧にいけないことではできませんでしたが、その分、ここ十年来無上のお天気と風土を提供できたのではないかと思っています。湖も魚も各々存分にその特色を発揮したと思います。

皆様、いかがでしたか、ご満足いただけましたでしょうか。

私達、九寨溝の神々は、ホモサピエンスの人々とも協力し、よりよい環境、よりよい生態系をつくり、世界遺産の名に恥じない未来をもたらし所存です。

皆様、お帰りになりましたら、私達のささやかな友情と心からの感謝の気持ちを、大勢の方々にお伝え下さい。ありがとうございました。

ところで私は一足さきに帰りますので、あとは大石副団長はじめ皆さんの「一路平安」を祈って、解任のご挨拶と致します。ありがとうございました。

「塞翁が馬」を実感

大石浩準

2008年6月24日から訪れた「遼寧省博物館と好太王碑を参観する旅」の直前に四川大地震(5月12日、中国・四川省を震源地とするマグニチュード7.8の大地震が発生。死者は8万人超)が発生した。その惨状は報道で聞き及ぶごとく惨憺たるものだ。個人的には何もしていない中、何か出来ることはないかと思いつきながら、中国の旅を続けている時だった。「地震による被害で黄龍・九寨溝などの世界遺産の観光地の交通が遮断され観光地の住民は困っている」との話から今回のツアーはスタート。やっと現実のものとなった。「四川大地震復興応援ツアー」はそんな思いを込めた者を含め19名の参加のもと7月25日成田を出発する。成田から成都そして九寨黄龍空港へ向かったが…。

【黄龍は中止に】

九寨黄龍空港からバスで一路黄龍へ向かう。途中対向車のバス・トラックなどが戻ってく

る。なんと前方で土砂崩れがあり、復旧に時間がかかり当日の黄龍への旅は中止となる。

#### 【楽山の仏像】

旅も後半に入り明日は帰国となる。成都から近いとので急遽「楽山の仏像」観光に行くことが出来たのだ。世界遺産である楽山の仏像は、成都から車で2時間。9時過ぎには大仏の頭の近くまでいくことが出来た。

大仏は樂山市の東、岷江、青衣江、大渡河の3本の合流点に位置。造像中三江合流点に捨てられたたぐさんの岩石が川の流れを穏やかにしたため船の沈没事件が減るなど、一つの治水工事でもあったようだ。像は弥勒菩薩の座像で唐（紀元713年）代から彫り始め90年間3代にわたり彫られた世界最大の仏像である。説明だと大仏は弥勒菩薩（弥勒牟尼仏の次にブツダとすることが約束された菩薩、未来佛）という。なぜ造った仏像はほかの佛（たとえば釈迦、観音など）ではなく弥勒菩薩なのか。日本の広隆寺にあるような弥勒菩薩でなく布袋様なのか不思議に思った。ホームページを調べてみる。すると当時は中国唯一の女皇帝・則天武后の時代。「武则天は諸寺の



布袋さま

造営、寄進を盛んに行った他、自らを弥勒菩薩の生まれ変わりと称し、「その時代が中国全土で弥勒信仰と弥勒菩薩造像が盛んに行われ」「その時代背景の中で楽山大仏が誕生したとのこと。

弥勒菩薩の顔が布袋（ほてい…弥勒菩薩の化身）なのは理由があった。布袋は七福神の中で唯一実在の人物である。中国の唐末期（9〜10世紀）に実在した禅僧契此（？〜917）がモデルになっているという。この僧は、大きくふくれた腹をしており、いつも手に杖を持ち、大きな布袋を背負い、施しを求めて市中を歩いていた。そして、布施を受けた物は何でも袋の中に入れて歩いたという。この布の袋から布袋という名がついたと考えられる。

背は低く、額や鼻にしわを寄せ、満面に笑みを浮かべた姿は愛嬌があったようだ。しかも、この僧は超能力の持ち主で、雪の中に寝ても少しも濡れず、人の吉凶を占って百発百中だったといわれる。その布袋和尚の人徳から、福運、大量のご利益があるといわれている。中国人の好きなタイプなので信者に人気を呼んでいたようだ。



楽山大仏

#### 齊了会訪中団ツアーに参加して

大石義久

昨年申込みを済ませた九寨溝・黄龍ツアーが四川大地震のため中止となり残念に思っていたところ、本年度の幼稚園の職員研修と合わせ四川大地震復興応援ツアー齊了会訪中団として旅行できることになり、大変嬉しく期待に胸を膨らませて旅立った。中国観光は今回で3度目だが、前回行ったのは20年前なので、社会全体の変容の具合にも興味があった。

最初の目的地は成都だが、乗り継ぎの関係もあり上海で降機しリニアモーターカーに乗車した。日本ではまだ試験段階のリニアモーターカーが、走行距離は短いが高時速431kmで実際に営業運行されているのにも驚いた。20年前の上海市街は自転車・リヤカーが多く、車は旧型で薄暗くなくても経費節減のためヘッドライトを点灯せずに走っていた時代と隔世の感がある。

中国の佛像に対して人民はどのように思っているのだろうか。海上から船で大仏を見ていると隣のおばあさんが「生懸命「南無……」と唱えている。観光地で遭遇した只一人の信者だ。

今回の旅で期待していた黄龍の旅が中止になりその一部の資金が四川大地震復興応援資金となり、同じ世界遺産の「楽山の仏像」観光が出来たことは将に「塞翁が馬」を実感した。

成都は周囲を3,000m級の山々に囲まれ、標高500mの盆地にある人口1,000万人を超える大都市である。肥沃な土地と水利に恵まれていることから「天府の国」として古代から栄えてきた。現在、地下鉄の新設工事中で、市街は車やバイク、リヤカー付きバイク等で溢れ随所で渋滞も起るといふ。晴れ間が少なく霧が立ち込めたような日が続くというが、多分車の排ガス等の影響でできたスモッグが盆地状のために外に逃げられず漂っているのではないかと思われる。実際滞在中一度も青空を見ることはなかった。地球上の全てのもものは宇宙船のカプセルと同様に空気を含め外に出ることはできないということを確認し、いくら天府の国と言われても、このような空気の汚染された都市には住みたくなないと痛感した。中国が発展したといっても車の数はまだ人口数に比べ少ない。人口13億の中国でこれから日本並みに車が増えたら排ガスはどうなるのだろうか。黄砂と同様に偏西風に乗って日本中を覆うことであろう。大気汚染の問題は世界規模で対策を練り努力しなければ解決する方法は



ない。特に車の排ガスや工場排煙を多量に出している先進国は真剣に率先して取り組むべきだ。黄龍で高山病対策のために購入した酸素ボンベのようなものを常に携帯しなければ住めない地球にだけはなつてほしくない。

成都から北へ460km、飛行機で40分、バスに乗り換え2時間のところに九寨溝がある。九寨溝は、深い溝の中に九のチベット族の部落があることから九寨溝と呼ばれるようになった。現在もいくつかの村がありチベット族が定住しているが、やがては世界遺産内ということでも他所へ移住させられるそうである。九寨溝はさすがに世界自然遺産といわれるだけあり素晴らしい景色が集中している景勝地である。標高3,000mの渓谷に多数の湖沼、瀑布、そして流れの速い川が点在し、それらをきれいに整備された遊歩道から眺めることができる。青・空・群青・緑色と湖沼によって異なる水の色に感嘆し、透明な湖底には炭酸カルシウムが付着しているため腐らなくなつた古木や、当地にしか生息しないコイを見ることが出来る。高山植物が咲き乱れる湖沼の背後には、4,000mの山が連な

りその上は鮮やかな青空と、まさに別天地の世界である。同じ四川省でも空気のおいと、空の青さがこれほどまで違うかと実感した。また、周囲にしぶきを飛ばし多量の水が轟音を立てて落下する幅の広い瀑布の姿も荘厳であつた。樹正群海と呼ばれる川は、盆栽のような木々の間を水が段をなして流れ見ごたえがあつた。

今回は日程上1日のみの早足の見学であつたが、3、4日かけてゆっくり散策できたらどんなに素敵だろう。九寨溝は四季を問わず観光できることである。道路が不通ということで行くことができなかった黄龍と合わせ、10月の紅葉の時期に再度訪れたいものである。

九寨溝は昨年の地震前までは一日に2、3万人もの観光客があり、どこを見るのにもごつた返し大変だったが、今は、九寨溝への陸路が地震で閉ざされ空路のみなので10分の1の3,000人しか来ることができないそうだ。私達にとってはどの場所もゆっくり見学でき幸いであつたが、ここにも地震の深い傷がまだ残っている。休業状態の多数のホ

テルと客のほとんどいない土産物店がわびしく乱立していた。陸路の復旧は来年一杯かかるようである。

今回のツアーではバスに乗ることが多かったが、交通事情について感じたことを次に述べたい。日本と違い車は右側通行なので戸惑いもあつたが、歩行者よりも車優先という感が強くあつた。前方青で横断歩道を安心して歩行していると、自転車とバイクが関係なく目の前を突つ切る。走行している車の前にも間隔が少しでもできるとすぐに割り込みをする。山道のカーブにもミラーはなく、やたらクラクションを鳴らし追い越しをかける。多数の車が往來している幅の広い道路でも歩行者は車をすり抜けるようにして横断する。いたるところに道路清掃人がおり、制限速度120km/hの高速道路上でも黄色い服を身につけ落ちていくごみを拾っている。どの車も交差点では我先にという感じで、譲り合うような光景は見られず他車と接触するのではと思われた場面が多々あつた。

また、黄龍に向かった道路は拡張のためいたるところが工事中で、一本道の狭い道で

あつた。私たちを乗せたバスは1時間半ほど

進んだ後、「この先、崖崩れで通行不可だ。」と戻ってきた車の運転手に告げられ止むなくUターンして元の道に戻つた。途中パトカーもいたがなんの指示もなく、黄龍への最初の入り口の所にも道路不通の表示がされていない。行くとところまでいって、行けなくなつたと分かつた時点で戻つてくるというなんと不合理なことか、本当の理由を知りたいものだ。

広大な面積、多数の人口、長い歴史、日本とは違う社会体制や文化等、中国について学習することは果てがない。

最後になりましたが、このような貴重な研修の機会を与えてくれた、れんげ幼稚園と一緒に楽しく旅することができた齊了会訪中団の皆様には厚く御礼申し上げます。

### 成都パンダ基地の見学

加藤亜季

今回の7日間の研修で以前から楽しみにしていたのは『成都パンダ基地』の訪問です。よく保育の現場では「パンダうさぎコアラ」という手遊びを行つたり、子ども達のグループ活動をする時に「パンダグループ」と名前を付けることもあります。子どもにも親しみやすく、イメージしやすいこと等の理由から、私達保育者も気軽に『パンダ』という動物(キャラクター)を使う機会が多いのです。実際に私が動物園でパンダを見たのは20年前で、本物のパンダがどのような動きや過ごし方をしているのかは覚えていませんでした。

パンダ基地へ着く前にガイドの王(ワン)さんが「パンダはどうして?と思う程、本当に可愛いですよ!」と言っていました。私も期待とわくわく感を持ち、早く見たい気持ちでいっぱいになりました。



パンダ基地で最初に着いた場所は『大熊猫幼稚園』。ここはパンダの子どもが集まる「幼稚園」という場所でした。パンダの姿をじっくりと見ていると、何だか思い出す光景…。よく考えてみると私が受け持つ3歳児(さくら組)の子ども達とても動きが似ています。

仲間のパンダの上に乗ってみたり、ちよっかいを出したりと一緒に遊ぶ様子が見られました。また木の棒を大事そうにくわえてみたり、ころころと転がったりと、まるで人間のよう



でした。一緒に見学をしていた理事長先生や園長先生と「S君パンダがいるね!」と言って3人の会話は盛り上がりました。

その側でそっと仲間を見守るパンダもいれば、仲間と一緒に遊ぶよりも木の高い場所へと登り、一人遊びをしたり、お昼寝をして過ごすパンダもいました。

元気な子パンダ達は多くの人に本当によく可愛がられ、ずっと見ていると飽きない、癒



し感を与えていました。

その後はもっと小さな生まれたばかりの赤ちゃんパンダやおとなのパンダを見ました。

赤ちゃんパンダは人間の手のひらにのる位の大きさでした。小さな赤ちゃんパンダも1年後に幼稚園に仲間入りするという話を聞いた時は想像ができませんでした。

おとなのパンダは子パンダとは違い、動きはゆっくりでした。寝転がって夢中で笹をほおぼる姿が見られ、のんびりと過ごしていました。

本物のパンダを見て、人間の子供とよく似ている姿や場面が多くありました。このパンダ基地の見学は私にとって今後の保育に役立てられそうなことや学びが沢山ありました。

10月に行われる園の行事『運動会』でパンダを使った競技をすることにしました。親子で取り組む徒競走で保護者と子どもはパンダに変身します。競技の途中ではマットの上でころころと転がったり、パネルに描かれたパンダへ新聞紙で作った笹を投げて、ごはんをあげる場面もあります。実際に私が見たことをイメージしながら、保育に取り入れられる



方法や活動を考えました。

運動会に向けての活動の中で、毎日登場するパンダのキャラクターがいます。子ども達が名前を考えた『ばんばんちゃん』です。毎日、ばんばんちゃんから手紙が届きます。手紙には運動会の活動で頑張ることや、その日の目標が書いてあります。まだ文字が読めない3歳児達は毎朝、登園すると「せんせい、おてがみよんで!」と言って楽しみにしています。

保育の中で、パンダを活動に取り入れることや、子ども達へ親しみを持たせるきっかけとなったのはこの中国研修です。日々の保育の中で、継続的に同じ活動を行うことや同じテーマで保育を進めることは決して簡単なことではありません。しかし、私が研修で学んだことや経験したことを子ども達へ伝えたり、活動へ活かせることはとても嬉しいことです。

また中国研修では他にも多くの経験をし、感動することができました。世界遺産である『九寨溝』の景色は見事で、とても気持ち良く、リフレッシュした気分になりました。

チベット族の部落の家庭訪問では、私が幼稚園で見ている子ども達とちょうど同じ歳のチベット族のお子様に出会うことができました。交流の中で、私達幼稚園教諭が、日本の昔から歌われている童謡『おおきな栗の木の下で』を披露したり、折り紙で手裏剣や風船を作ってプレゼントしてきたことは、素晴らしい体験になりました。

この中国研修を通して見たこと、学んだこと、様々な経験をしたことを活かし、子ども達へ楽しい保育を提供できるように努めていきたいと思えます。

「中国」と「日本」の様々な  
場面での違い

細川麻央

一週間の中国研修を通して様々な場面での習慣の違いや文化の違いを発見することができました。このレポートでは特に私が衝撃を受けた事柄を挙げて中国と日本の様子を比較してみたいと思います。

☆生活面☆

《飲み物》

日本では水道水を飲み水として使っていますが、中国では水道の水は一切飲まず、ペットボトルの水が毎回配られてそれを飲んでい



毎朝、保育室のロッカーの上にお手紙が届きます。





ました。中国製の水は味が硬く少し癖のある後味がしました。ちなみにコンビニやお店を覗くと、日本でも販売されているボルビックやエビアンなどのブランドの水が置いてありましたが、他の飲み物に比べて値段が高く設定されています。中国側の狙いとしては、私たちを含め外国からくる人は自分の知っている品物を買うと考えて、値段を高くして利益を得ようとしているのではないかと思います。また日本ではコンビニなどのお店に行くとき飲み物は冷やして売っていると思われませんが、中国ではジュースやお酒などの飲み物は全て常温で販売されていました。暑い日が続く中で冷たい飲み物がないというのは少し残念な気持ちでした。

### 《トイレ》

日本では当たり前のように女性のトイレは個室になっていてドアも付いていると思いますが、中国では最近になってドアや鍵がついたそうです。昔は短いしきりがあるだけで鍵やドアが付いてなかったそうです。私たちも様々な場所のトイレを使いましたが、中には

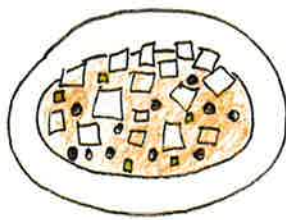
ドアがない所もあり、勇気が出せず入ることができませんでした。しかし中国の女性の方はドアがないことは普通のことなので、躊躇することなくトイレに入っていました。またトイレの設備が日本に比べて整っていないのか、どこのトイレもトイレレットペーパーを流すことができず、ゴミ箱に捨てていました。日本のトイレは芳香剤の匂いが香っていたりと清潔感のあるイメージですが、中国のトイレは水が流れなかったり、トイレレットペーパーをゴミ箱にすてているので不快な臭いがしてとても不衛生でした。

### 《食事》

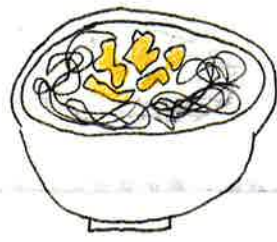
主に一週間の食事は四川の中華料理を食べました。日本の味付けは砂糖や醤油、みりん、ソース、塩など様々な味が楽しめますが、四川の中華料理では香辛料と塩の味しかありませんでした。日本とは違って、一回に15品ほど一品料理が出たのですがどれも塩味か山椒か辛い味付けで調理されていました。トマトやチンゲン菜など様々な野菜を使い、辛さで汗が出るので健康的には良い食事だったので

はないかと思えます。

### ★一番辛かった料理ベスト3★



1. 陳さんの麻婆豆腐

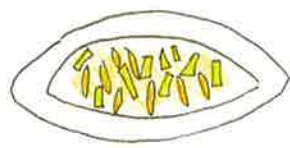


2. 牛肉の乗った麺

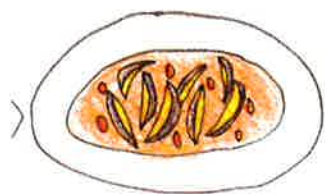


3. 鍋で煮込んだ肉

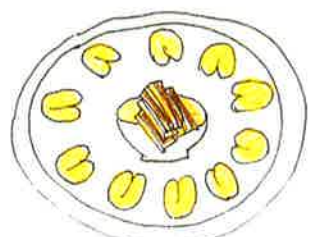
### ★一番おいしかった料理ベスト3★



1. ニラと肉炒め



2. 麻婆茄子



3. 豚肉のパン挟み

初めて食べる味だったり、同じ料理でも日本の味付けとは違ったりと毎回楽しんで食べていました。辛さに驚いたり、皆さんで汗を流しながら夢中で食べたりと食事の時間が一番印象に残っています。

### ☆中国人と日本人☆

研修の中では中国の様々な場所に行き中国人と触れ合ったり、様子を見ることができました。まず中国の女性は「とても強い」と感じました。中国語は分かりませんが、道々で会話をしている人を見ると常に喧嘩をしているような強い口調で会話をしていました。何気ない日常の会話でも言葉の発音や表情で捕らえ方が違ってしまふのだと実感しました。トイレの場面では順番に並ぶという習慣がないようで、私たちが先に待っていたのにも関わらず押しのけて先にトイレに入ってしまった。またレストランの店員さんは、私たちが席に座ると食べるペースなど考えず一気に料理を出したり、机に乗り切らないのに無

理やり置くなどあまりお客さんのことを考えない人が多かった気がします。日本では場所によってだとは思いますが、来てくれたお客さんを手厚く接待してくれたり、何事も丁寧にしてくれると思います。

私からすると中国の人はせっかちで何をするのも乱暴に見えました。ガイドさんを始め、バスの運転手さんなど中には笑顔で優しい印象の方もいましたが、ほとんどの人が怖いと感じました。ガイドさんいわく、中国の女性は口が達者で怒ると恐ろしいそうです。同じ女性でも国や文化の違いがあることに驚きました。また人間観察ができたことで改めて自分の日頃の言動を考えさせられました。

今回の研修では齊了会の方々と一緒にできたことで、戦争時代の話や中国の伝統の話など様々な知識を教えてもらうことができました。また世界遺産なども見学することができました。また世界の素晴しさに感動しました。この経験が少しでも保育に生かせるよう自分なりに考え、計画できたらよいと思いました。

初めての海外旅行

石田 京

私にとって今回の中国への旅は、人生で初めての海外旅行でした。高校生の修学旅行で北海道に行った際に初めて飛行機に乗りましたが、それ以降は飛行機にもずっと乗っていませんでした。久しぶりの飛行機…久しぶりの旅行…家族ともずいぶん長い間離れてしま…今回の旅行には不安がいっぱいでした。

旅行に行く日が近くなるにつれてドキドキ感が増していきました。どうしよう…大丈夫かな…と思っっているうちに、出発の日となりました。不安だらけだった私は、旅行の支度をするにも気持ち乗らず、慌てて支度をしたのは前日の夜遅くでした。

しかし、出発の日、理事長先生や園長先生のウキウキした嬉しそうな表情をみて、私の不安も一気に吹き飛びました。理事長先生と園長先生についていけば大丈夫と思うと長い旅行も楽しみになりました。

中国に着いてみると、普段どこにいても聞かなくて思わせてくれました。今回、皆さんと共に旅行に参加することが出来、1週間一緒に過ごし沢山のお話が出来たこと・楽しさを共有できたことを嬉しく思っています。とても良い経験となりました。ありがとうございました。また皆さんとお会いできる日を楽しみにしています。れんげ幼稚園にもまた遊びに来てくださいわね。

「一緒に旅行に行ったられんげ幼稚園の先生で、どんな子だったかしら？」そう思ったらこの写真を見ればすぐに思い出すはずです。私たちのことをずーつと忘れないでくださいわね。

こえてくる日本語が仲間の中からは聞かえず、周りにはなんと喋っているのか分からない言葉話している人が沢山いることに不思議さを感じました。

また、天気が悪くすぐ曇っていたにも関わらずバスガイドさんが「今日は成都にしてはとても天気が良いですよ」と言ったことに驚きました。小学生の時から習ってきた大気汚染とはこのことか！こんなにガスつぽくなっている国もあるのか…と普段日本で過ごしている中ではあまり関係ないだろうと遠い問題だと思っていたことを目の当たりにして、真剣に考えていかなければいけない問題なのだと感じました。

中国で一番楽しみにしていたものは、おいしい中華料理です。四川はマーボー豆腐が有名だから辛い料理が沢山出てくるのかな？と、辛いものが大好きな私はワクワクしていました。中国で食べた中華料理は、思っていた程辛い料理が多く（毎食のように食べていたので辛さに鈍感になってしまっていたのでしょうか）とてもおいしかったです。しかし、中国に着いて3日目経った頃には

「日本のごはんが食べたいな〜パスタもいいな〜」と中華料理ではない他の物が食べたくなっていました。このことから、日本に帰ってから1週間くらいは晩御飯に中華料理が出てくると無言になり、友達と外食する時には「お願いだから中華料理以外にしよう」と言っていました。どんなにおいしいものでも毎食続けて食べていると飽きてしまうものなので

すね。そんな中、皆さまがときどき差し入れてくださったキャラメルや日本のお菓子が私にとってはとても嬉しかったです。

そして、パンダ基地や九寨溝・三星堆博物館など沢山見学した中で、私の印象が一番残ったのは、九寨溝の湖の美しさです。見たこともないほどの綺麗な水の色に驚き、この場所で暮らしていた民族がいたことに神秘的なものを感じました。湖や滝を見ていると心地がよく、テレビで江原さんや美輪さんが言っているパワースポットとはこういう場所か！と思えました。日本にも沢山の綺麗な場所・パワーをもらえる場所があるといえます。遠い国に行くのはなかなか難しいけれど、まずは日本の綺麗な景色を沢山見に行きたいな



みやこ  
ザ・不思議ちゃん！  
三人の中で一番ちびっこです。

あき  
二人よりも一歳年上のお姉さん！  
しっかり者です。

まお  
へんがおが得意なおもしろい子！  
三人の中で一番背が高く、  
足が細〜いです。



ほかほか太陽の香りがして、  
とてもかわかった☆  
すぐ仲良しになりました。

チベット族の家庭で